

古高取通信

No.41

令和7年1月

私たちは、活動の四本柱を基に、まちづくりに貢献することを目指します。

1. 活動の拠点を創る
2. 古高取の知識を深める
3. 古高取の魅力を伝える
4. 次世代へつなげる

古高取を伝える会会報



「西徳寺山門」直方市指定有形文化財

目次	
定期総会	2
学習部会	5
焼物部会	6
なんでも掲示板	8
お知らせ	9

『地元で生きるものとして』

1600年、徳川の世となった。当時この福智山麓の里人が日常使用する言葉は、400語もあれば充分生きてゆけた。

そこへ黒田家が豊前から筑前国に入封し、国境に六端城を造り、国を固めた。その一つ鷹取城に母里太兵衛が城代として入ってきた。一万八千石といわれる。そうすると400名程の家臣団がこの静かな里に入ってくる。城の修復も始まり、家臣団もそれぞれに家を立て、城下町（山下町）造りが始まった。

さらに宅間窯が興り、そして当時日本屈指の内ヶ磯窯の建設に入る。この15年間程、この谷は建設ラッシュが続いて行政・軍事・文化産業が発展する。

しかし一国一城令や諸事情があつて、八山親子もこの谷から去ることとなる。この谷はまた元の静かな農耕者のみの村に戻った。

近世の統治は、山谷から平野へと移るようになる。

私はこの地元、永満寺で生業をしている。400年程前の、この谷の通過者を憶念する。福智山麓はかつての数々の歴史が埋もれている。再びこの地が人づくり・物づくり・そして文化の拠点となればと念願する。

鷹取宗恵

2025年度定期総会

〈2025年5月18日(日)〉
場所…直方市中央公民館

3階第3学習室

記念講演…「陶工として生きる」

講師…永末修策氏

(豊前吉右衛門窯窯元)

2025年度の定期総会は、事業経過報告・決算報告・役員改選・事業計画・予算について滞りなく承認いただきました。役員改選では、会長 鷹取宗恵氏・副会長 森本裕次氏、理事には副島邦弘(留任)・寺井秀子(新任)・末松登志子(留任)・向野志津絵(留任)・倉田豊子(留任)・成清一枝(留任)・草野知一郎(新任)・清水築山(留任)・村上和正(留任)・事務局長 柴用ムツ子(留任)・監事 東陽一(留任)・田畑恵美子(留任)され、隅田知明前会長が退任されました。八年間ご苦勞様でした。今後は会員としてご指導下さい。

出席者は、過半数を超えました。



会長挨拶

隅田 知明

”会員の皆様、こんにちは”
2025年度定期総会を開催することができました。

本日は直方市長の大塚進弘氏を来賓としてお招きしております。それと福岡県会議員香原勝司先生には総会にメッセージをいただいております。

「古高取と伝える会」も17年になります。

この会では活動の課題で四本柱を基に町づくりに貢献することを目指しています。

第一には拠点づくりです。「歴史資料館」の建設促進をはかりたく直方市に働きかけて、歴史関係団体を中心に協議を行ない要望を伝えました。



歴史資料・民俗資料等を含めて「歴史民俗資料館」として高取焼発祥の地(宅間・内ヶ磯)を生かすものと思っています。

第二は福智山ダム周辺といこいの村を含めて県事業として公園化をはかるように都市計画を求めています。その一環として亀井味楽氏が登り窯を高取焼の発祥地、直方で実現したいとの希望で市所有地である工業用地として開発された用地に登り窯を作って”陶芸の里”としたい由と聞き、これには資金等の手当てと行政の援助が必要で高取焼の三家(高取八山・八仙・亀井味楽)の意見の統一が心要となってくるわけです。有望な構想として行政に伝えていきます。

第三は福智山ダムに沈んでいる内ヶ磯窯跡本体の”可視化”ができないかと考えています。まちづくりの核として、福智山ダム周辺の公園化の一環の位置づけで、文化財として窯本体は保存処置してありますので見ることは可能です。県・県教を含めて協議をすることをお願いいたします。郷土の文化財として、会発足して約二十年経ちますので提議します。

「古高取を伝える会」の活動は

小学六年生のマイ茶碗造りを中心に展開してしますので、昨年度の反省に立って、今年度もやっていきたい。今後ともよろしくお願い申し上げます。会員皆様。

来賓挨拶

直方市長 大塚進弘



”みなさんこんにちは”

来賓としてお伺いして、ごあいさつをするたびに、この場に立つてつらいなあと思っておりますが、木下さんもいらしゃるので。この三年間新しいことができなかった。このので、文化スポーツ課に市の施設の状況を聞きましたところ、図書館の雨漏りがないだろうな、美術館は、美術館の対震化をやるうとしています。入館料をもらって

るので施設の安全性を先ず検討しています。

福智山ダム周辺の公園化によって、市で開発した市有地に亀井味楽さんの登り窯を造り高取焼を焼いて、発祥地である直方、内ヶ磯窯跡についても考えているところで

高取焼は本当の伝統的文化で、それを広げるため、小学6年生にマイ茶碗づくりを「古高取を伝える会」の皆様が日頃から市内小学校の焼物教室の指導に改めて感謝いたします。本年度もよろしくお願ひします。

昨年直方の陶工であった吉田浩通さんが亡なり窯には後継者がいないことを考えなくてはならないことです。

もう一つは新しい文化的な連携の模索を考えています。

東京芸大・熊本大学・熊本市・徳川美術館等の地域の中の文化的アプローチを何らかの形で連携したいと考えています。

それには高取焼の発祥地、直方の誇りをもっていますので「古高取を伝える会」の皆様にお願ひしたいなあと考えています。

「古高取を伝える会」の皆様

益々のご発展と今日お集りのみなさまのご健勝を祈りまして、私のごあいさつとさせていただきます。本日はおめでとうございます。

祝辞

福岡県会議員 香原 勝司

2025年度古高取を伝える会の総会開催を心からお喜び申し上げます。

貴会におかれましては、毎年市内の小学校の6年生504名を対象にしたマイ茶碗づくりを企画開催され、郷土の伝統文化財である高取焼を、子供達に伝える取組をはじめ、古高取を伝えるため、さまざまな取組に、みなさま方に心より敬意を表します。

福岡の歴史と文化を後世に伝えることは、われわれの使命であり、そうすることが郷土愛と確信しています。「古高取を伝える会」の今後の益々のご発展と会員の皆様のご活躍とご健勝をお祈り申し上げます、お祝のご挨拶と致します。

令和7年5月18日

記念講演

豊前吉右衛門窯元 永末修策氏
をお迎えして

副島 邦弘

本年の総会後の記念講演会には60人の参加者がありました。

講師には豊前吉右衛門窯二代目の永末修策氏を迎えて、演題は『陶工として生きる』ということでお話をいただきました。

その講演の内容は、直方谷尾美術館で作製された「豊前吉右衛門窯75年の歩み」にもとずいてお話をさせていただきました。

先代の永末晴美氏は大正6（1917）年に田川郡福智町（旧方城村）の地名で吉右衛門谷に生まれ、昭和13（1939）年に、前



年開戦した日中戦争に招集され南中国（南支戦線）に赴き、昭和15（1940）年広東省で行軍中落馬し脊椎を損傷する大怪我を負ってしまいました。広東（広州）の野戦病院から台湾を経て本土へ移送され、各地の陸軍病院を転々とし、昭和19（1944）年9月これ以上治癒せずと云うことで強制退院となり除隊帰郷となった。傷痍軍人として生涯腰に不安を抱え苦しむことが度々ありました。

帰郷後、となり村の上野焼高鶴窯にて窯焚きなど手伝いながら陶芸に触れることになりました。このころ生涯の師と慕う歴史家で上野、高取焼研究家の美和弥之助氏（1906〜1981）と知り合い、彼の勧めがあり京都で陶芸を学ぶことを決断し、しかし、伝手が無くなか京焼の窯元、作陶家を訪ねて弟子入りを乞いましたが断られ、ようやく宇治の朝日焼第十四代松林豊斎氏（1921〜2004）の元で学ぶことを許され昭和21年から23年の約二年間京風の茶陶に触れることができました。みずからと吉右衛門のロクロの手法、道具の使い方、室焚きは京風となっています。

帰郷後、藤井千枝子氏と結婚。
昭和24（1949）年に豊前吉
右衛門窯を福智町に開窯し、長男
の修策氏が生まれます。今回の講
演者です。

昭和42（1967）年、田川東
高校卒業、同年4月愛知県立高等
窯業専門校入学。昭和43（196
8）年3月卒業後、宇治市の朝日
焼第十四代松林豊斎氏に師事。昭
和48（1973）年10月メキシコ
に渡る。メキシコ州政府工芸振興
局勤務。昭和49（1974）年ナ
ヤリ州立大学工学研究所勤務。昭
和52（1977）年メキシコ国立

自治大学工業デザイン学科勤務。
昭和53（1978）年9月村田み
づ枝と結婚。昭和54（1979）年
メキシコ国立工芸振興基金勤務。

以上の政府機関・大学等で陶芸
指導、研鑽をつむ。昭和57（19
82）年12月メキシコ合衆国、先
住民担当より、特別表彰を受け
る。昭和58（1983）年1月帰国。
父（晴美）と共に作陶を始める。

平成10（1998）年永末吉右
衛門（晴美）傘寿記念展を福岡・
岩田屋を企画。平成12（2000）
年開窯50周年記念展を小倉・井筒
屋にて開催。平成13（2001）年
5月から平成26（2014）年5月
まで、東京新宿伊勢丹にて父子展、
個展を合わせて10回開催。平成17
（2005）2月、父吉右衛門（晴美）
が永眠されました。

平成16（2006）年直方谷尾
美術館にて永末吉右衛門追悼展開
催。

以後、毎年個展（永末修策）を
開かれました。

現在に至っています。

永末父子の陶芸の歴史をまとめ
てみた。やきものの道は、修業の
道で、匠をめざすことです。

その第一歩は粘土作りからです。



使っている粘土は近くの山、上野
焼の陶土として広く使われていた
夏吉（田川市）の白っぽい粘土、
赤池伏原（福智町）の黒っぽい粘
土などを掘ってきて、まず天日で
乾燥。水車で粉砕後、篩い通し小
石やごみを取り除き、水槽に移し
て攪拌、水簸の工程を経て徐々に
沈殿させて水分を取り、ペースト
状になったべとべとの粘土を古瓦
に盛って乾燥させてお餅状になっ
たら出来上がり。労力と時間を要
する大変な仕事である。現在では
材料屋に行けば各地の窯の粘土材
料も売っている。基本的高くつく。
窯元では自前で自分に合う粘土を
作っています。

釉薬は土灰釉が基本でしたから
長石と木灰、昭和30年代後半まで
方城町弁城岩屋の山では炭焼きか
行われていて、炭焼き窯から副産
物の灰を分けてもらっていました。

現在では一部家庭の暖炉で薪を
利用している所から木炭を集める。
江戸時代は庶民の住宅の窯から灰
を集める商売もありました。

絵付けの顔料の呉須は材料商か
ら、鉄は赤池伏原の陶土採掘場に
ヤケと称する天然の酸化鉄が産出
していたのでそれを粘土と同じよ
うな工程で精製します。まさに自
家製です。現在もストックがあり
ますので使用しています。

ロクロは父が使用した蹴ロクロ
と京都風の手回しロクロを使っ
ています。

窯は登り窯で燃料は薪（松や杉
等）を利用し、現在はガス窯を使
用している。登り窯の使用は昭和
48（1973）年が最後で、ガス
窯は昭和46（1971）に導入し
てからは登り窯は2年に一回とな
りました。

父は60歳代半ば、体力的な衰え
は現れ始めていましたが、陶芸家
としての力量の面では最高点であ
る匠となった時期でした。

学習部会(2025年1月～6月)

昭和60年代(1985～89)には窯の経営を私に任せてくれて、有限会社豊前吉右衛門窯を設立しました。その形態は現在に至っています。また、私の発案で平成に入って(1989)から個展を開催することにしました。以来、今日迄年に1回多くて2回福岡市・北九州市のデパート展を始めて広島・高松・2001年東京に進出し10回新宿伊勢丹で2015年まで開催しました。その後大阪で3回、最近では福岡・北九州を中心に開くことにしています。

これからの心配ごとは後継者不足で、私の家でも、子供達はそれぞれの道を歩んでいます。今後10年以内に窯を閉じることになるでしょう。

また、今でもメキシコと太い交流があります。と結ばれた。

講演後に実物をもって説明を加えられた。それは素焼から製品までの流れと使用する工具の説明をされました。

質問を受けて、朝日焼の現状と後継者の問題が一番である。と答えられました。



令和6年度の高取焼基礎研修講は、3月26日(水)の現地視察「バス見学・伊万里 大川内山(鍋島)」をもって全て終了しました。

また、令和7年度の高取焼基礎研修講座は、「茶の湯と戦国武将」というテーマで三回行います。

「第一回」

△2025年9月21日(日)△

テーマ…織田信長

「第二回」

△2025年10月19日(日)△

テーマ…明智光秀

「第三回」

△2025年11月16日(日)△

テーマ…豊臣秀吉

※午前10時30分から12時まで、会場は直方市中央公民館です。

伊万里鍋島焼のルーツ・国史跡 大川内鍋島窯跡を訪ねて

佐藤 俊雄

昨年の柿右衛門窯と有田への旅に引き続き、今回は2回目のバスハイクへの参加です。

当日は天候にも恵まれ、遠賀川

河川敷駐車場をほぼ定刻に出発して、一路、伊万里市を目指して、バスは快適に進行しました。

途中、海鮮レストランでの少し早目の昼食を済ませ、バスは本日の目的地である秘窯の里・大川内山に到着しました。

早速、伊万里・有田伝統産業会館に入館して、スタッフの方から「鍋島とは?古伊万里焼とは?そのの違い?鑑賞のポイント」などについて、大変詳しい説明を聞き、私も鍋島焼・古伊万里焼については一端の知識人にでもなったような気分浸っていました。

そんな昂った気持ちの残るまま今なお300有余年の歴史と伝統を受け継いできた30数軒もある窯元「みて歩き」を始めました。

鍋島藩窯坂を上りながら両側に店を構えている窯元の展示品と値札見比べては、中々手が出ずに、溜息ばかりが出ていきます。

みて歩きの後は、高台にあった展望広場、焼物広場、大壁画の方にも足を伸ばしてみました。

その途中に見かけた「登り窯」は奇麗に手入れされており、窯の周囲には薪木が整理され、うず高く積まれていました。

その光景は、地域の秋祭りに窯元全員で焚く献上儀式用だけでは無く、日常的にも使われているのではと、思わせるくらいでした。

帰路の集合時間近くになって、産業会館まで戻った時に、鍋島藩窯橋から少し見上げた処に高麗人を始め、陶工の無縁墓標880余を集めた供養塔の「陶工の墓」が目に入ってきました。異国の地で亡くなられた方々の望郷の念が伝わります。

二度目のバスハイクを体験したことで、磁器・陶器に対する造詣を少しでも深めて行ければと思います。

来年もバスハイクの計画がされれば、参加したいと思います。今後ともよろしく願います。



鍋島藩窯を訪ねて

藤田 雅子

3月26日楽しみにしていた「国史跡大川内鍋島窯跡見学のバスハイクです。前日に桜の開花宣言がありましたがあいにく黄砂飛来で空は霞んでいます。天候にも恵まれワクワクしながら河川敷を9時に出発しました。高速道路を走り途中副島先生と合流し昼食場所の唐津へと向いました。

まずは腹ごしらえと唐津おさかな村糸島食堂で海鮮丼を堪能し少しお買物を楽しみ目的地「秘窯の里大川内」へとバスは走り1時間程で到着です。

伊万里鍋島会館で館長さんに鍋島焼、伊万里焼について説明を受けました。鍋島焼は佐賀藩が徳川将軍家への献上や幕府の要人への贈り物として作られた磁器製品でこれを作る為藩内のすぐれた陶工を集め大川内に役所を設け人の出入りを制限して厳しい管理体制の中で最高級品を作り出したとのお話に佐賀藩がいかに徳川家との繋がりを大切にしていたががわかり

陶工達の大変な苦労を垣間見た気がしました。

主な製品の種類は三つで染付、色絵、青磁に分けられ大きさも一尺、七寸、五寸と決められていました。またこの製品の作り方はすべて分業で行なわれていた事が驚きでした。陶工達は自分の名譽の為に一つ一つの作品を分業により作陶し藩の名譽の為に苦勞したのだと思いました。伊万里焼は販売を目的に作られた製品であるのが鍋島焼との決定的な違いだとわかりました。色々教えていただき鍋島焼を少し理解した所でいよいよ自由時間です。

それぞれが窯元を廻り気に入つたものを購入したりしました。散策途中の藩窯橋の欄干の上には立派に鍋島焼の壺が飾られ下には春夏秋冬の花をモチーフにした陶板がはめ込まれ、そこから見る大川内山の風景にいにしへの陶工達に思いをはせ時を経ても人々に感動を与える作品を残したのだと改めて思いました。

このバスハイクを企画された役員の方々に感謝です。そして楽しくぐー一緒した皆さん、ありがとうございました。

焼物部会（2025年1月～6月）

令和6年度、それぞれの学校等で「お茶会」を開催しました。

また、令和7年度の陶芸教室は、4月26日の直方青年会議所にはじまり市内6小学校（230個）で一学期が終了しました。

もっとも暑い6月と言われ梅雨も早々に終り猛暑の夏です。今後体育館での作陶は考慮しなければなりません。

尚、欠席者の作品の取り扱い方もいま一度学校側としつかり連絡を取りながら進めていきたいと思っています。



卒業の時に513人の子ども達にマイ茶碗をお渡しできる様にしたいものです。

「直方青年会議所」

〈2025年4月26日（土）〉

場所…直方商工会議所

「直方東小学校」

〈2025年5月27日（火）〉

場所…直方東小学校

「福地小学校」

〈2025年6月6日（金）〉

場所…福地小学校

「下境小学校」

〈2025年6月20日（金）〉

場所…下境小学校

「上頓野小学校」

〈2025年6月29日（日）〉

場所…上頓野小学校

「直方南小学校」

〈2025年7月3日（木）〉

場所…直方南小学校

「中泉小学校」

〈2025年7月16日（水）〉

場所…中泉小学校

小学校からお手紙をいただきましたので少しだけ紹介します。

今日は僕達のために、お茶会を開いてくださりありがとうございました。うございました。今日のお茶会で学んだことは3つあります。1つ目は礼儀作法です。正座をして足がしびれた時にどうすればよいかなどを知ることができました。2つ目は日本の文化です。お茶やお茶の道具なども日本の重要な文化であることが分かりました。3つ目はお茶の味やおかしの食べ方です。1つ目と似ていますが、実際にたてたお茶がどのような味で、どのようにして飲むのが分かりました。また、お茶を飲むときの和菓子の食べ方が分かってよかったです。中学校や社会に出てお茶をたてることは少ないと思います。でもお茶をたてるときに色々な人のおかげでお茶をたてることができました。感謝していきたいです。

名前 ()

(7)

なんでも掲示板

●劇

親鸞劇を演ずる会

〈2025年5月6日(火)〉
場所…万福寺(直方市上頓野2548)

私共、「親鸞劇を演ずる会」は、5月6日直方市上頓野の万福寺様にて、大入り満員の中で最終公演を無事迎えることが出来ました。

この間、第一部「越後の雪解け」と第二部「御同朋なり」という2



作品を、13年間21ヶ寺にて上演してまいりました。もちろん地元の劇団「やしやぶし」さんのご協力あつてのことでした。

風天の寅さん流に申せば、その土地その土地の親分さんやお姐さんにご厄介になりながら、演劇の旅を続けて参りました。

仏様の、み教えを法灯と言います。1本のロウソクから何人もの人が火を取り分けても、元のロウソクの灯は減ることはありません。むしろ分ければ分ける程、周りが明るくなります。その灯をかかげた方を親鸞様として演じてきました。そしてその灯は、現在の我々も照らしているのです。

長い間のご支援、誠にありがとうございます。

合掌

●金沢との絆

田中 紀子

直方市の小学校では各学校で6年生が卒業式を前にお茶会を開いています。

お茶会では、礼儀作法、お点前の説明を簡単にします。

マイ茶わんを使って、実際にお茶会の体験をします。

茶道具についても、日本各地の伝統工芸によるものが多く使われており、それらの説明も加えます。

子ども達とのお茶会を通して、金沢市との絆が生まれました。

伝統工芸の町金沢市の方からお手紙を頂戴しましたので紹介させていただきます。

田中紀子様

お世話になっております。

今年も令和6年能登半島地震の被害に遭われた方に思いを馳せてくださりありがとうございます。

また、お茶会にも輪島塗や九谷焼の茶道具をお使いいただきありがとうございます。

田中様にご相談させていただき始めることができた「金沢・茶道子ども塾」は、今年で第14期を迎え、4月から新しい塾生が茶道に関する講座を1年間学びます。

また、当市では、「金沢・茶道子ども塾」だけでなく、夏に全国から様々な流派を集めた「全国学生大茶会」を開催しており、茶道文化の発信を今後も進めてまいります。

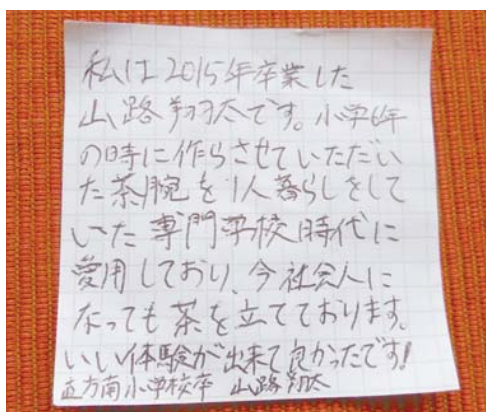
金沢市文化政策課 山下

●茶わんの行方

倉田 豊子

一昨年、陶芸教室で作った茶わんが一万個を達成しました。

その行方はどうなっているのだろうか。常々気になっていましたが、やっと22才の若き青年から嬉しい嬉しい一報が届きました。さっそく作品とお手紙を紹介します。



お知らせ

● 会長退任に想うこと

隅田 知明

本会は、高取焼開窯400年記念式典の成果を引き継ぐ形で、2008年に発足し17年を経過しました。初代能間会長が教育長に選任されたことで、私が引き継ぐことになりました。

当初より今日まで活動の4本柱として

- ① 活動の拠点を創る
- ② 古高取の知識を深める
- ③ 古高取の魅力を伝える
- ④ 次世代へつなげる

を掲げ活動を続け、市内の小学6年生を中心とする「マイ茶碗づくり」も1万個を超えるなど一定の成果を収めてきました。拠点を作る課題については、文化関係4団体の代表者で「直方市歴史民俗資料館」（仮称）建設促進に向けて、具体的に「旧爆発試験所」跡地を候補に検討を重ねてまいりました。「本会の10周年」には、更に一歩進めるため、



- ① 高取焼資料館建設の促進
- ② 登り窯の復元と都市部で焼けなくなった窯元と連携した陶芸祭の開催
- ③ ダムに沈んだ内ヶ磯窯跡地中遺構の可視化

の三つの課題を挙げました。

私は、県職員時代「福智山ダム建設事務所」に勤務したとき高取焼窯跡の発掘調査報告書を見て初めて「高取焼」の存在を知りました。京都では窯跡の発掘調査でダム計画が廃止になった話も聞きました。ダム建設にあたり①副ダムの位置を変更し内ヶ磯窯跡を残したこと②珍獣「しいらく」の碑を

作った（実際は後任者がつくった）などいくつか環境を守る努力をしたことを思い出します。400年祭の時、当時の県議より前夜祭で高取焼の芝居をしてくれとの要望があり、私の所属する「劇団やしやぶし」で「高取焼物語」（八山炎の旅立ち）を公演したこともありました。

その誇りと共に伝えようとされる姿に、大きな感動をいただきました。申し遅れましたが、私は今年度から入会を認めていただきました草野です。長いこと陶芸や茶器の類には興味を持つことなく過ごしてきましたが、2年ほど前からふるさと直方に息づく文化とその歴史に目を向けるうちに、その貴重さとそれに取り組む方々の真剣さに心打たれる機会が増えて参りました。まだまだ未熟者ではありますが、皆さんの足手まといとならぬよう精進する所存です。どうぞよろしくお願いいたします。

● ごあいさつ

草野 知一郎

令和7年6月29日（日）、上頓野小学校6年生約80名を対象とした焼き物教室に、お手伝いとして参加しました。1時間弱の短い時間ではありましたが、授業参観の一環だったこともあってか、子供たちとその親の賑やかな声が体育館一杯に広がり、皆さん大変有意義な時間を過ごせたようです。お世話する側の伝える会の方々の手際や説明も完璧で、私自身にとっても大変勉強になりました。何より、かつて郷土に花開いた文化を、



●金剛山もととりアジサイ園 (金剛山もととり協議会)



6月1日に開園式を行いました
が、アジサイの彩は、いまいちの
状況に、会員の気持ちは、落ち込
み気味でした。自然のさまざまな
条件が重なって、その重みの中で
アジサイは時を待っていました。

私たちが、心を込めて草刈、草
取りに励んだことに、アジサイは
見事に応えてくれました。

日ごとに、いろいろも鮮やかに、
訪れる方々の笑顔、歓声に、私ど
もボランティアの笑顔も倍増です。
降り続く雨や猛暑の中、鷹取会
長も元気に、警ら棒を右に左に交
通整理をされました。

恵みの雨に、アジサイは益々、
元気になっていきました。来園者
の方から、アジサイの名前が中々
覚えられないので、アジサイの名
札を立てていただきたいとのご意
見を頂戴しました。

特に、アナベル、墨田の花火に
人気が集集中の中、昔ながらの普
通のアジサイに癒された等々、あ
りがたいご意見に、私どもも来年
に向けて、意欲が湧き出てしまし
た。

予想外に早い梅雨明けにより、
猛暑のなかでも、水やりは欠かせ
ません。大変な労力をかけての水
やりは酷な作業となりますが、ア
ジサイは今、水を欲している、今や
らなければとの思いで水やりを続
けています。

花摘み、草取り、草刈と来年に
向けての意欲や慈しみを、湧きだ
たせてくれるアジサイよ、ありが
とう。

「スタッフと大きく下げてアジサイ園」
恵美子
「木陰にてアジサイ見つめ笑顔ます」
詠み人知らず



●焼物教室の日程 (小学6年生対象および地域対象)

- 「鞍手幼稚園」
△2025年9月1日(月)△
場所…鞍手幼稚園
- 「植木小学校」
△2025年9月4日(木)△
場所…植木小学校
- 「直方西小学校」
△2025年9月16日(火)△
場所…直方西小学校
- 「新入小学校」
△2025年10月3日(金)△
場所…新入小学校
- 「感田小学校」
△2025年10月24日(金)△
場所…感田小学校
- 「直方北小学校」
△2025年10月28日(火)△
場所…直方北小学校
- 「親子焼物教室」
△2025年12月6日(土)△
場所…直方市中央公民館

皆様、ご協力のほど、よろしくお
願い致します。



〈編集後記〉

今号の表紙は、直方藩四代藩
主長清公が居住していた藩主館
の門を廃藩後、移築したものと
伝えられています。

直方の歴史に触れることがで
きる場所のひとつ、お宝です。
これからも地域のお宝を少し
でも紹介していきたいと思いま
す。

皆様、今後ともどうぞ宜しく
お願い致します。

「古高取通信」会報・NO41

〈発行〉

古高取を伝える会

〈発行日〉

令和7年7月20日

〈現在の会員数〉

正会員 48名(48戸)
賛助会員 12名(12戸)
団体 2団体(2戸)

〈マイ茶碗の数〉

10,908個

〈事務局〉

〒822-0026
福岡県直方市津田町7-14
TEL 0949-(23)1311